新・火葬場を仮想するワークショップ

ー未来に贈る火葬場とは？ー

自分たちの体験から考える。わたしの思う、お見送りとは？

第2回

まちにとっての火葬場とは？

4/5（土）13:30~16:00

高山市役所地下市民ホール
参加者：14 名

第2回は、はじめに参加者の皆さんがこれまで体験したことから得た気づきや感想などを共有。続いて、「お見送り」について考え、これらの話し合いから新しい火葬場のヒントを探しました。最後は、まちにとって火葬場がどんな場所であってほしいか、周辺環境にも目を向けてもらい意見交換をしました。

当日のプログラム

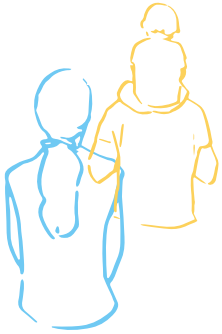
13:30　はじめに／前回のふりかえり
13:40　ワーク①
　体験からの気付きを共有しよう
14:10　ワーク②
　「お見送り」について考えよう
15:30　ワーク③
　地域に住む人にとってどんな火葬場であってほしいかを話そう
15:55　まとめ・おわりに・次回案内

プログラム詳細

1 はじめに／前回のふりかえり

前回のワークまとめ資料、ニュースレター、スライドを使いながら、第1回の内容についてふりかえりました。

→続きは次ページへ



2 ワーク① 体験からの気付きを共有しよう

新しい火葬場を考える前に、これまでの体験の中で、「もっとこうだとよかったのに」とか「ここはよかったなぁ」という気づきがなかったを思い出してもらい、グループで共有しました。

ワークの結果を一部抜粋してご紹介

地域になじんでいるといいな

○今も、生活と一緒に火葬場がある
○地元の人が当たり前の風景だと感じている
○地元の子ども達が墓地を走っている
○城跡の方を向いている（そちらへの意識がある）

こんな場所だといいな

○告別の場で故人を語りたい
○他の家族が見えないようにしたい
○墓参りに来た人（一般の方）が休める場所がある

自然になじんでいるといいな

○広葉樹の新緑がきれい
　→季節によって変わっていく姿もいい
○空を見上げて故人を思う時間があるといい
○死を目や耳で感じられないか
○山の散歩コースを整備する

時間がゆっくりだといいな

○時間に追われず、ゆっくりできる場所がある
○火葬のあとにもう少し思い出にひたりたい
○時間にあまりとらわれたくない
○火葬の時間が短い分、死に向き合う時間やひとりの空間も必要
○忘れないようにするのが供養
○故人の思いに寄り添ってくれる

イメージが変わるといいな

○坂道のイメージや雰囲気を変えたい
○一般に持ちやすい不吉なイメージを変えていく
○子ども達が怖がらない
○火葬場職員の服装も変えたい

その他

○火葬のスイッチはあったほうがいい
　自分で扉を閉めるなども
○動物のお墓を行きやすい場所に（ゆっくりできる場所）
○亡くなっても大事な命なんだ、ということを伝えたい
○雪で午前中できないときも。天候に左右されづらいといい

3 ワーク② 「お見送り」について考えよう

もし自分が見送る立場、見送られる立場だったら…。具体的にイメージして新しい火葬場へとつながるタネを探しました。

ワークの結果を一部抜粋してご紹介

故人の思いに寄り添って…

○故人が好きだった音楽をかけたい
○（自分は）ワインを供えてほしい
○亡くなった人の写真集や趣味のものを見ながら思い出を共有する
○好きだった食べものを棺に入れる
○お気に入りの服を着せてもらう
○生きてきた証を大事に
○アルバム、パネル、メロディー
○故人の希望が叶うようにしたい
○一人ひとりを大切に／100人100色

花、がある

○好きなお花に囲まれたい
○火葬場に行く道の両側に花を植える
○火葬場の囲いを花畑にして見て歩けるように

家族だけに限らず…

○仲良しな人は最期まで送ってあげたい
○親族だけでなく、友人もたくさん集める
○家族以外の人たちが敷地内で手を合わせられる場所がある
○家族に遠慮しすぎず見送れるようにしたい

雰囲気を大切に

○やさしい空気が流れているところで見送られたい
○昔のわいわいとした雰囲気を復活させたい
○感謝、ありがとうと言いたい
○よもやま話で盛り上がってほしい

火葬場の周り／まちとのつながり

○公園、コーヒーが飲めるところがあるといい
○火葬場のあとに温泉に入る人たちもよくいる
○お盆の大切さなど日本の行事を発信したい

葬儀の形

○ミニ葬儀ができるような機能
○その空間で送れる（直葬）といい

続きは
次ページへ

4 ワーク③ 地域に住む人にとって火葬場がどんな場であってほしいか

建設地の立地環境は…

建設地の特徴のひとつが、まちのエリアに近いこと。近隣のエリアに住む人たちにとってどんな場所だとより誇れる場所になりそうかを考えました。

A：**市街地に近く、緑の多い**空間
B：東山寺院群の街並みがかもす、**静かで厳かな佇まい**がある
C：まちの喧騒から離れた**奥まった**空間
D：気持ちの切り替えを促す**ゆるやかな坂道**

ワークの結果を一部抜粋してご紹介

自然を感じられる場所

○建物の外の自然（太陽・風）が感じられる
○周囲の木々や空が見え、四季を感じられる
○散歩したくなるような、懐かしさが感じられる
○里山と一体となっている
○公園のように自然が豊か

誰もが訪れやすい場所

○どんな人でも気兼ねなく来れる
○火葬以外でも訪れたくなる
○遊歩道があり、入りやすい雰囲気がある
○周りの山の散歩コースとつながっている
○ウォーキングする人たちのコースの一部になる

心を落ち着けられる場所

○静かで、心も身体も落ち着く場所
○手入れが行き届いていて気持ちがよい
○あたたかい飲み物があって心を落ち着けられる
○マイナスイメージにならず、悲しくならない場所
○飛騨の木が内装にも家具にも多く使われている

おごそかである場所

○命について考えられる場所
○最後の別れにふさわしい集中できる場所
○日常生活の延長線上ではなく、
厳粛さもあり別世界を感じられる雰囲気

その他

○地域住民が花や植物を管理し
つないでいける場所
○土砂崩れには気をつけてもらいたい
○雪が溜まりづらい屋根を考えてもらいたい

感想シートより

火葬とは何か、火葬場とはどんなところかを考えるのは難しいなと思いました。

今の火葬場の近くに住む人から話を聞けて参考になりました。

死生観はそれぞれ違うけど、一人ひとりの想いを大切にしたい。

市民が喜ぶ火葬場になるよう祈る！

みなさんの大切にしたいもの、こと、が聴けて良かったです。

野焼きの歴史なども知ることができ有意義でした。

それぞれのバックボーンがわかると、火葬場に対する思いもわかり、様々な意見が反映された火葬場になると期待します。

なごやかな雰囲気で大変良かったです。

進行役よりコメント

第２回のワークショップもおつかれさまでした。まちにとってどんな火葬場であってほしいか。火葬場ができてからどんな暮らしがあるとよいか。といった内容は、空間や場所のことを具体的に考えていく上でのとてもいい土台となってくれます。次回、ぜひそのことを実感していただけると嬉しいです。

主催：高山市役所 市民福祉部
火葬場建設推進課
協力：東畑建築事務所／LifeWork
発行：2025年4月26日